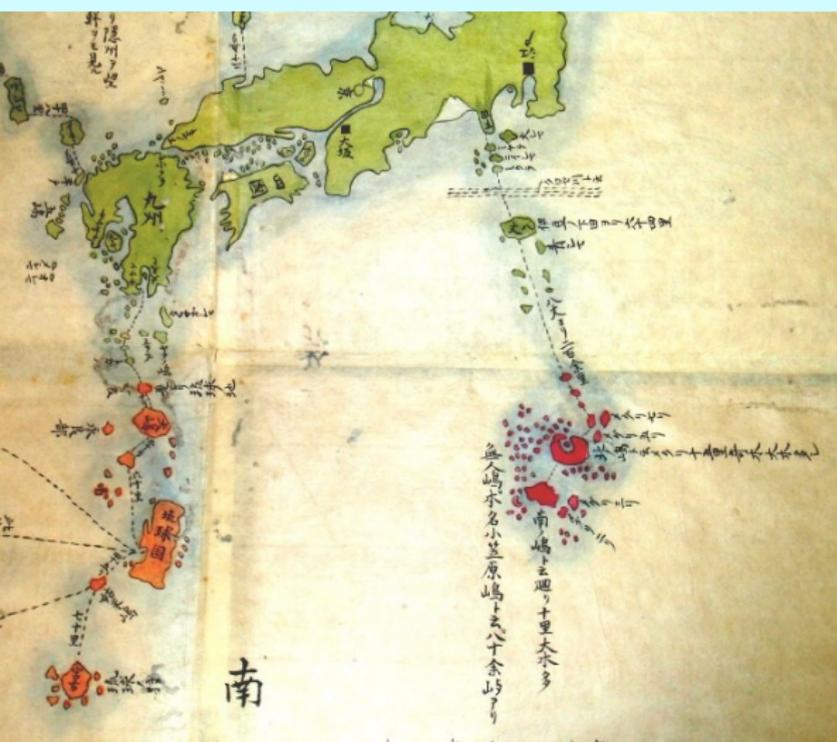


塙保己一先生と 小笠原島 (令和五年)

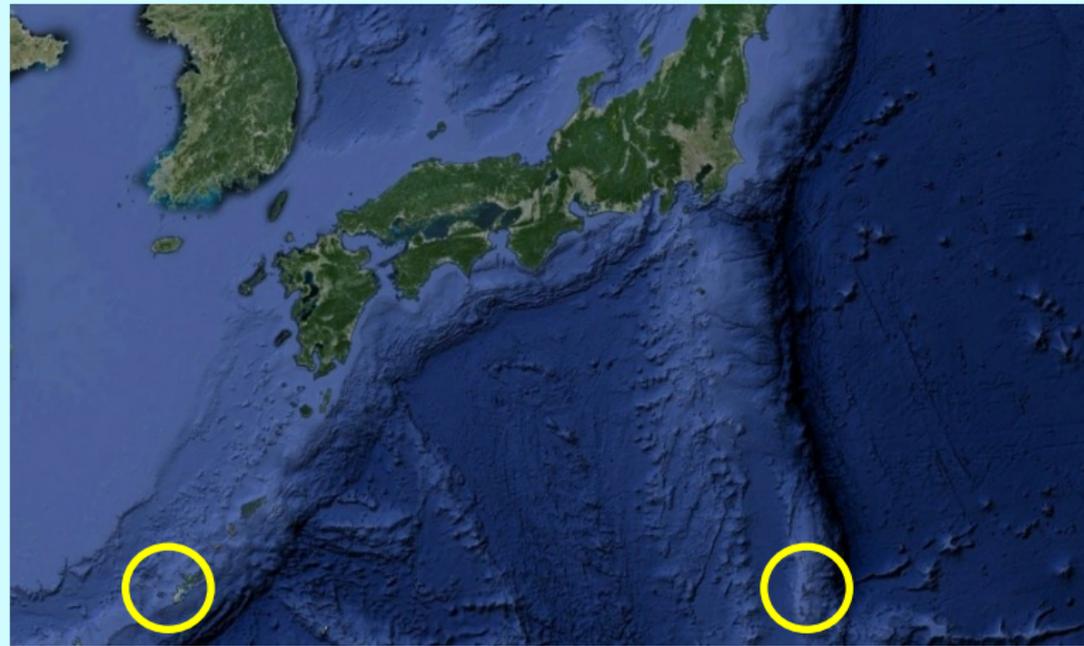


総検校塙保己一先生
遺徳顕彰会

田中 学

塙保己一先生は、小笠原島の領土問題に、どのような貢献をしたのか。

平成二十年に、小笠原島へ個人調査に行きましたが、良くわかりませんでした。



沖縄↑

小笠原島↑

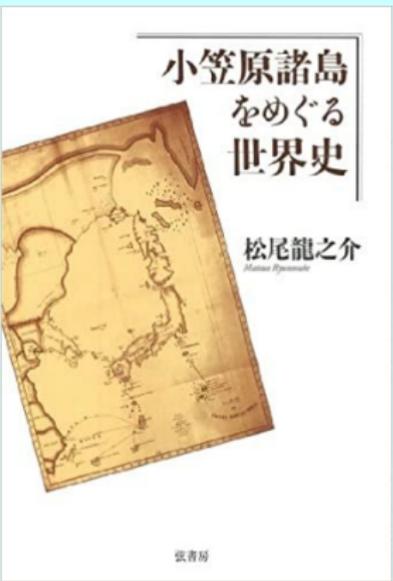
小笠原諸島は、東京から南に1千キロ



その後、平成二十五年まで調査して、塙先生の遺徳顕彰祭（九月十二日）で発表させていただきました。

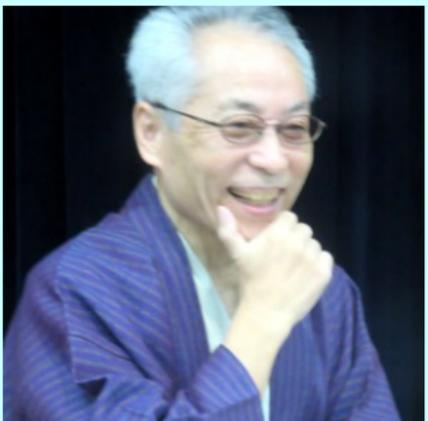


小栗上野介



令和四年になり、小笠原島を最初に探検した嶋谷市左衛門を研究する長崎市の松尾龍之介さんや、渡米して先進工業を会得した小栗上野介を研究する高崎市東善寺の村上泰賢さんと交流し、内容を一部修正しました。

松尾龍之介さん



村上泰賢さん



小笠原島の紹介動画

この講演では

① 塙先生の生い立ち

② 群書類従の制作

③ 和学講談所の設立

④ 小笠原島の発見

⑤ 英米と領土交渉

⑥ 和学講談所の資料

の順で説明いたします

① 塙先生の生い立ち

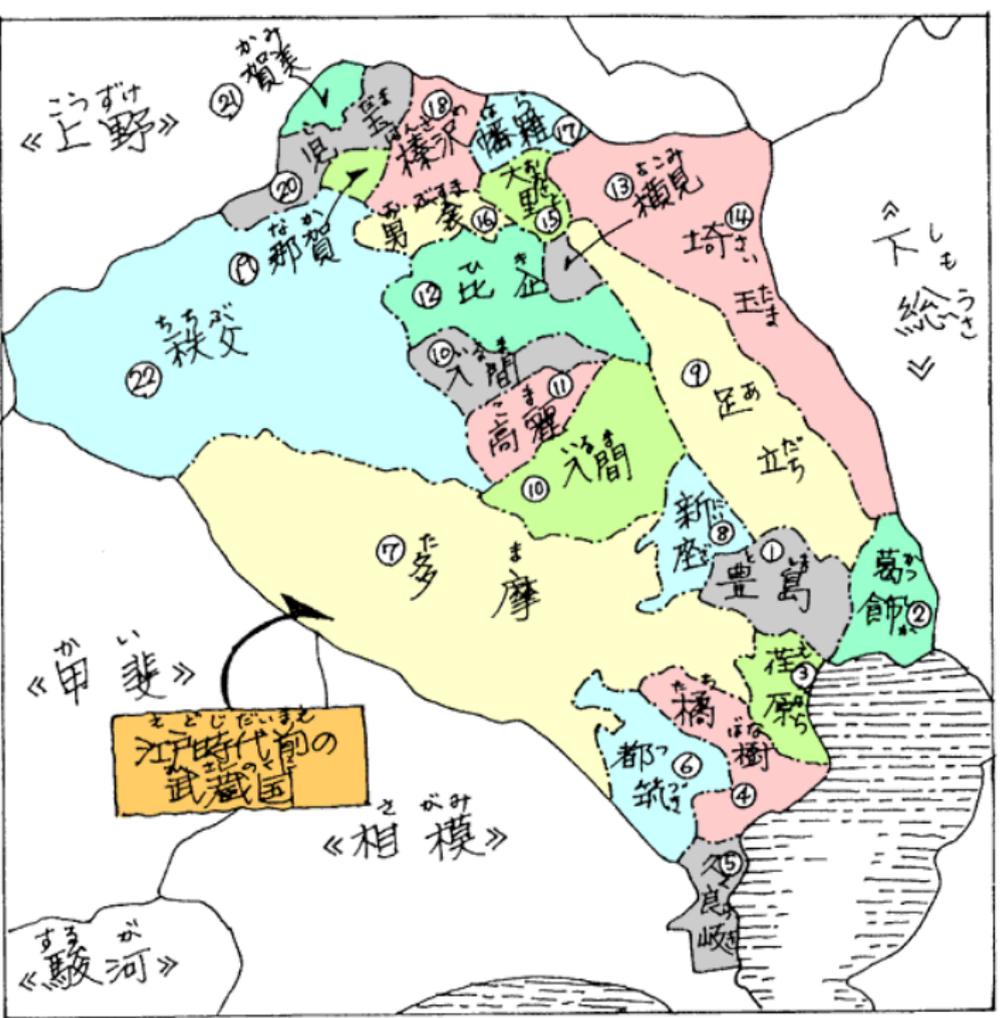
一七四六年（延享三年）

はなわ ほきいち むさしのくに

塙保己一先生は、武蔵国

こだまのこおり ほきのむら

児玉郡保木野村に生まれました。



図：小平市立図書館ホームページ資料

塙保己一先生紹介動画

塙保己一先生の生家 荻野邸

文政
塙保己一

人物
塙保己一

一七五二年（宝暦二年）

塙保己一先生は七歳で失明しました。

塙保己一先生の幼少期、記憶力は優れていて、近くの寺で子供達が勉強している様子を聞いては、先生の言うことを全て記憶してしまいました。



一七六〇年（宝暦十年）

十五歳 江戸へ

銭二十三文の入った巾着袋
(母の帯、手製、形見の財布)

そば一杯が
十六文の時代



御宝箱

そうめん箱に紐を付け、
背負って江戸へ



和学講談所では物入れに
活用。何でも出てきた。

江戸に出る紹介動画



一七六三年（宝暦十三年）

十八歳 衆分へ

一七七五年（安永四年）

三十歳 勾当へ

四官（七十三段階）

ぎとつう

・座頭（通称は衆分）

こうとつう

・勾当

べつとつう

・別当

けんぎよう

・検校

十老（二老、
一老（総検校）

② 群書類従の制作

一七七九年（安永八年）

三四歳の正月、塙保己一は群書類従を作ろうと決意しました。

当時の本は、手書きの写本が多かったため、日本の古代・中世・近世の貴重な歴史書・文学書が、燃えたり虫に食われて本が消えてしまふことを恐れて「各地に散らばっている貴重な本を集めて、国学を勉強する人に役立つように」という考えによるものです。

群書類従の紹介動画

群書類従

群書類従

群書類従

廿

十



温故学会

塙保己一史料館（渋谷区）

群書類従の版木を保管

A man with glasses, wearing a dark sweater over a collared shirt, stands in the center of a long library aisle. He has his hands clasped in front of him. The aisle is lined with tall, dark wooden bookshelves filled with books. The perspective is from the end of the aisle, looking down its length towards a bright window at the far end. The lighting is soft, highlighting the man and the texture of the bookshelves.

温故学会 版木の紹介動画

③和学講談所の設立

一七九三年（寛政五年）

塙保己一先生は、寛政五年に、和学の研究や教育をする和学講談所を設立しました。

儒教の朱子学を教える官立の昌平坂学問所に対し、国学を教える和学講談所は私立学校でした。

この和学講談所では、群書類従の制作も行いました。



←靖国神社

武道館→

←和学講談所跡

皇居

靖国神社靖国偕行文庫

遊就館

日本の軍事と戦争の歴史を伝える博物館

九段北

attic room
YASUKUNI GAIEN

靖国神社 第一
鳥居(大鳥居)

九段坂上KSビル

九段下

都営新宿線

昭和館

戦中と戦後の日本の生活を伝える博物館

相撲場

参集殿

神池庭園

千鳥ヶ淵緑道

千代田区立九段坂公園

3丁目

靖国神社

日本の軍事史を紹介する展示

社務

喫煙所

平安堂ビル

ファミリーマート
九段下駅西店

コンビニエンスストア

九段

九段

一回坂校舎

ビル別棟

九段南

ファミリーマート
九段南二丁目店

コンビニエンスストア

武道館→

日本武道館

日本武道館 時計台

UNICO BUILDING

九段ISビル

都営新宿線

イー・ライン

ファミリーマート
九段南二丁目店

コンビニエンスストア

青葉第2ビル

武道館→

日本武道館 時計台

302

401

マニユライフ
プレイス九段南

三松学舎大学
附属高等学校

農林水産省三
番町分庁舎

日本生命三番町ビル

イタリア文化会館+110492

靖校校和学講談所跡

←和学講談所跡

CAFÉ 33

北の丸公園
文化施設がある森林公園

北の丸公園

二七通り

三番町関野ビル

大妻女子大学

三番町POULAビル

ナチュラルローソン

401

パークマンション千鳥ヶ淵

きんでん東京本社ビル

はなわほ きいち 塙保己一和学講談所跡

Remains of Hanawa Hokiichi's Wagaku Kodanjo

東京都指定旧跡

1955年（昭和30年）3月28日指定

塙保己一は、武蔵国児玉郡保水野村（現在の埼玉県本庄市）の出身の学者で、若くして目が不自由となりました。

江戸に出て、最初は音楽などを学びましたが、次第に学問に励むようになります。

1793年（寛政5年）に裏六条町通（現在の四番町4番地）に和学講談所を設立しました。1805年（文化2年）になると、裏六条町の屋敷が御用のため収公され、代わりに表六条町通（現在の三番町24番地）に移転しました。

和学講談所では、日本の古文献が広く調べられ、集大成となる「群書類後」が編纂されました。



塙保己一正装肖像 湯沢中会蔵

↓ 現在は駐車場に

← 和学講談所跡
現在の看板
（歩道側から）

昔の看板

昔の標柱

一七九五年（寛政七年）

幕府からの金銭援助を受け
るため、和学講談所は林大学
頭の支配下に入りました。



和学講談所復元図

塙保己一が幕府に願って設立した和学
講談所の配置復元図。成沢福松図。

④ 小笠原島の発見



おがさわら丸

小笠原諸島の観光日程

6日目	東京着十五時
5日目	半日観光 父島発十五時
4日目	一日観光
3日目	一日観光
2日目	父島着十一時 半日観光
1日目	東京発十一時

私が行った時は片道二十五時間半かかり
ましたが、今は二十四時間で行けます。





シュノーケリング



南島観光



イルカと泳ぐ



スキューバダイビング

個人視察に同行した三上さんは、我々が潜っている間、海釣りをして大漁でした

私は、妻と一緒に観光し、三回潜り、鯨の見物も行きましたが、鯨は遠くてデジカメには映りませんでした。

④小笠原島の発見

先史時代

発掘された石器や骨器は、島にミクロネシア系の人々が居住、または滞在していた可能性を示唆している。

一五四三年（天文十二年）

スペインの航海者、ルイ・ロベツ・ビラロボスの探検船サン・ファン・デ・レラトン号が小群島を発見。しかし飲料水不足のため上陸せずに近海を通過しただけで帰る。硫黄島と推測されます。

一五九三年（文禄二年）

信州深志藩（松本市）の

おがさわらながとき

城主小笠原長時の曾孫、

おがさわらさだより

小笠原貞頼が小笠原島を発見したと伝えられる。

一六三九年（寛永一六年）

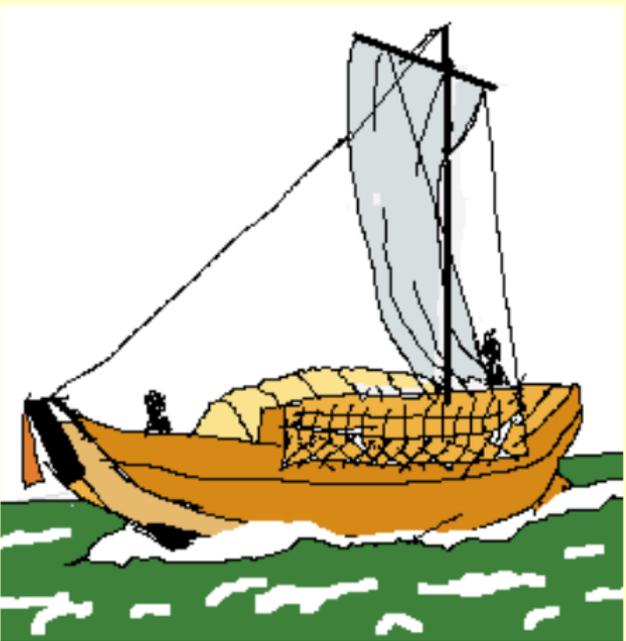
オランダの船エンゲル号とフラフト号が小笠原諸島近海を通り、上陸しなかったが地図にその位置を記録し、フラフト島（父島）、エンゲル島（母島）と命名する。

一六七〇年（寛文一〇年）

ちようえもん

阿波国・浅川浦の船（長右衛門ら七人）が、紀州で蜜柑を積み江戸に向かうが、遠州灘で難破して八丈島沖無人島（小笠原の母島）に漂着した。廃材で小舟を作り八丈島経由で伊豆下田に生還。島の存在が下田奉行所経由で幕府に報告された。

現在ではこの報告例が最初の発見報告と考えられている。



蜜柑船のイメージ

一六七五年（延宝三年）

江戸幕府は漂流民の報告を元に
ふくくじゅまる

長崎代官に調査船富国寿丸を作

しまやいちざえもん

らせ嶋谷市左衛門を派遣し、
島々の調査を行った。

嶋谷は島に祠を造り、脇に「此
島大日本之内也」と書いた。緯
度を測り地図や資料も作成し、
下田に帰航した。

ぶにんしま

当時は無人島と呼ばれた。

調査結果は
將軍はじめ
幕府上層部
に披露され
た。



御朱印船のイメージ

ただし、実際には幕府は金を出していません。

すえつぐへいぞうしげとも

長崎代官末次平蔵茂朝（三代前から御朱印船貿易で裕福）に調査探検を命じ、末次平蔵は配下

おおくしやすざえもん

の大串安左衛門に造船させ、

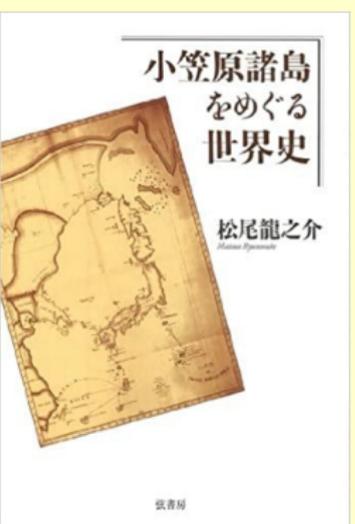
しまやいちざえもん

嶋谷市左衛門が航海術に長けているので、彼を航海士として調査させた。

延宝三年閏四月五日に下田港を出帆し、同月二十七日に小笠原島に到着した。調査した後、六月五日に出帆して、十二日に下田に帰航した。

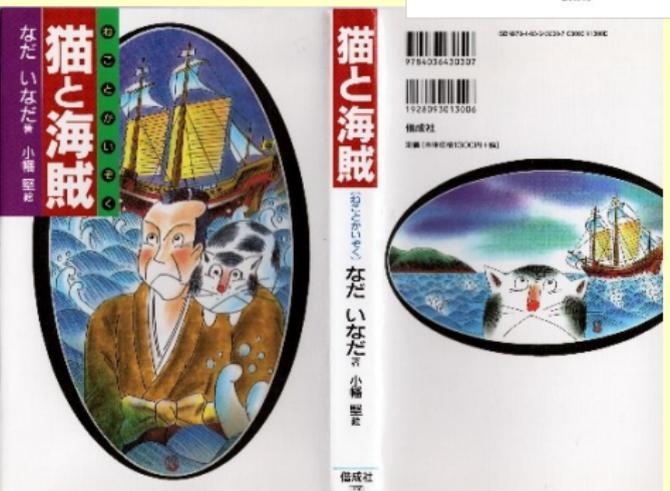
この船は一般的には「富国寿丸」と言われているが、これは船尾に書家の筆で「富国寿航」と書かれていた事から誤解されたとおもわれます。

平成25年「総検校塙保己一先生遺徳顕彰祭」講演の後で、平成26年発刊の「小笠原諸島をめぐる世界史」と言う本を買い、著者で嶋谷市左衛門の研究、長崎市の松尾龍之介さんと交流し、なだいなだ著「猫と海賊」を紹介されて、色々な指導をいただきました。



張書局

長崎市では、嶋谷市左衛門の小笠原島探検の偉業と功績をあまり顕彰していない様です。



「猫と海賊」は猫が語って読みやすい良書ですが、嶋谷市左衛門を高く評価しています。海賊と表現していますが、実際には素晴らしい探検家です。

一七二七年

一六七〇年に難破船が八丈島沖の無人島を見つけた情報は、長崎出島の医師ケンペルがドイツ帰国後に、遺稿から刊行された『日本誌』に掲載され、日本人による先占がヨーロッパに紹介された。英語・フランス語・オランダ語に翻訳された。



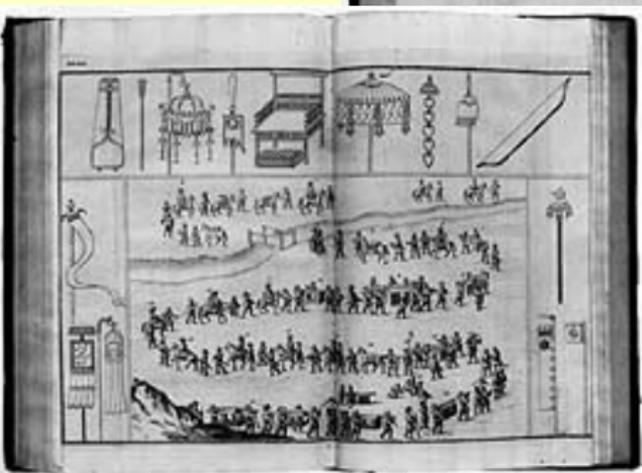
ケンペル



江戸城地図



『日本誌』



ケンペルが江戸への行列

一七二七年（享保一二年）

たつみむじんとうそじょう ならび こうじょうとめがき

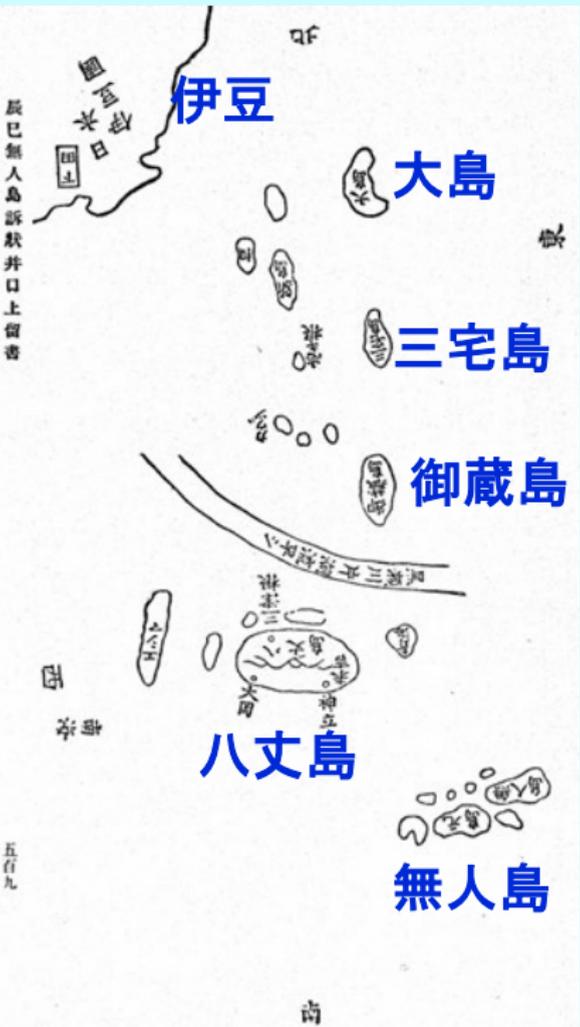
辰巳無人島訴状并口上留書

おがさわらさだより

「信州深志の藩士小笠原貞頼
が文禄二年に無人島を発見し
た」と、享保一二年に子孫を

おがさわらさだとう

名乗る浪人小笠原貞任が、幕
府に訴える。貞頼の探検事実
の確認と島の領有権を求める。



辰巳無人島訴状并口上留書の絵図面

一七三五年（享保二十年）

小笠原貞任の訴えに対して、幕府は一時は調査船を出したが、最終的には南町奉行所の審査で捏造と断定され、貞任の訴えは却下された。

貞任は一七三五年に詐欺の罪に問われ、財産没収の上、重追放の処分を受けた。



小笠原民部少輔貞頼
無人島発見の碑
東京都知事 鈴木俊一 書

小笠原嶋地図

もり こうあん

森幸安

一七五二年（宝暦二年）に
書写された小笠原諸島の絵図
です。当時は伊豆国に属し、
距離等位置関係は正確ではあ
りませんが、父島の周りに母
島、兄島他の属島が描かれ、
一名「無人嶋」と呼ばれてい
たとあります。



にほんよちず

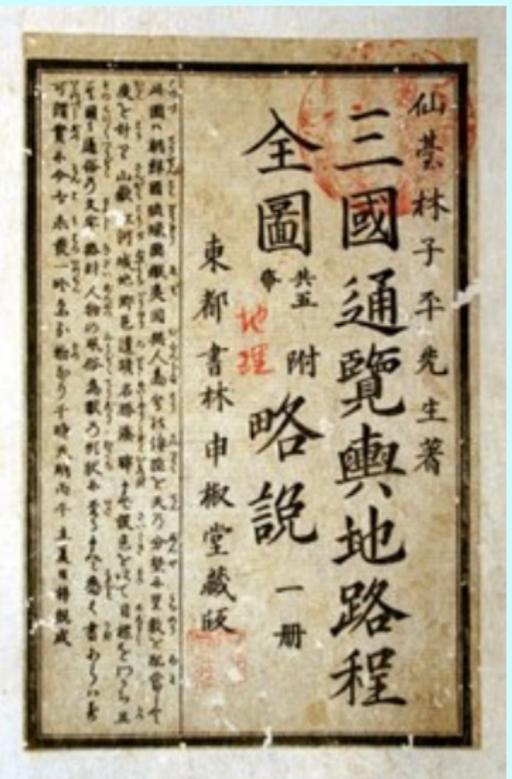
「日本輿地図」 国立文書館蔵

一七八五年（天明五年）

林子平は、長崎で嶋谷市左衛門の子孫から、無人島（小笠原島）の地図を見せられて『三國通覧図説』の地図を書いた。



林子平



地図の表紙

一七九一年（寛政三年）

国防を主張した「海国兵談」と一緒に発行禁止・版木没収の処分になり、蟄居生活になった。

一七八七年（天明七年）

（一七九三年（寛政五年））

寛政の改革

まつだいらさだのぶ

老中松平定信が行った幕政改革。享保の改革を理想とし

びこうちよちく

きえんれい

儉約、備荒貯蓄の奨励、棄捐令、人返し、異学の禁など。



信定平松中老

宗吉川徳父祖
は改革の享保

「寛政異学の禁」は、幕府の学問所である昌平坂学問所で朱子学以外の学問を禁じ、官吏登用は朱子学を学んだ者のみとした。この結果、諸藩の学問所も、朱子学が中心となり、和学を学べる場所が無くなった。

一七九三年（寛政五年）

塙保己一は和学の研究・教育機関である「和学講談所」を創設した。



本庄市塙保己一記念館の「和学講談所」模型

一八〇〇年代（一九世紀）

アメリカ式捕鯨が全盛となり、小笠原周辺にアメリカ、イギリス、ロシアなどの捕鯨船が激増した。

アメリカ式捕鯨とは、帆船でクジラを追い、ボートで接近し鉈でしとめる捕鯨方法です。

当時鯨油は灯油として用いられてきたため、石油にとつて代わられるまで全盛期が続いた。



一八二二年（文政四年）

塙保己一先生 逝去



和学講談所は、はなわじろうただとみ塙次郎忠宝が
翌年に跡目相続しました。

一八二三年（文政六年）イギリスの捕鯨船トランジット号が小笠原島の母島に来航した。フィッツシャール島と命名。



コフィン船長

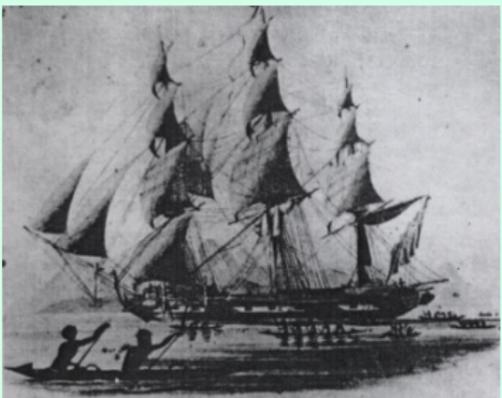
一八二七年（文政一〇年）

イギリス海軍の調査船ブロッサム号が小笠原諸島を探検。

ビーチー艦長は「ピール」（父島）、「ベイリー」（母島）など命名し、これらの島々を英領とする由を銅板に彫り、樹木に釘付けし、国旗を掲げて英国領であることを宣言した。



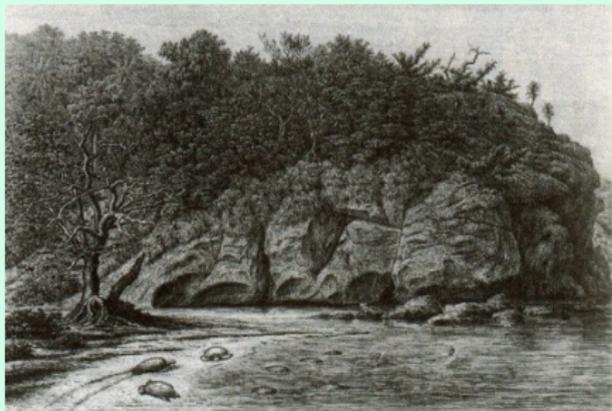
ビーチー艦長



ブロッサム号

一八二八年（文政十一年）

ロシアの探検船セニャーヴィン号（リュトケ艦長）が二見港に入港。



当時の小笠原島のスケッチ



セニャーヴィン号とリュトケ艦長

一八三〇年（天保元年）

イギリス人マテオ・マザロを長とし、英米人五人とハワイ島先住民十数名が、ハワイ・オアフ島から小笠原諸島父島に移民した。

のちにラセニエル・セーボレーが島民のまとめ役となる。

畑を耕したり、家畜を飼ったりして、捕鯨船に水や食糧を供給して生活するようになる。



後世のセーボレーの家族

一八五三年六月一四日
(嘉永六年)

ペリー艦隊が、琉球から浦賀に向かう途中、小笠原島に立ち寄り、四日間滞在した。太平洋の中継基地を考え、父島の二見港奥に石炭置場五〇ヘクタールを購入した。ラセニエル・セイボレーを島長官に任命した。



アメリカ領有宣言
の銅板拓本

アメリカの領有を宣言した銅板の拓本が母島のロース記念館に展示されている。

一八五三年七月八日
(嘉永六年六月三日)
黒船来航、開国か攘夷か



ペリー提督

ペリー提督率いるアメリカ艦隊が浦賀沖に来航。

旗艦「サスケハナ」など四隻、大砲は合計七三門で、数十発の祝砲を発射した。

ペリーの目的は「將軍にアメリカ大統領の親書を渡し、開国させること」だった。

あべまさひろ

老中阿部正弘は、ペリー一行の久里浜上陸を許し、浦賀奉行がペリーと会見した。



老中阿部正弘

幕府は第十二代將軍徳川家慶が病氣なので返答に一年の猶予を要求した。

とくがわいえよし



將軍徳川家慶

ペリーは返事を聞くため、一年後に再来航すると告げて、七月一七日（嘉永六年六月二二日）に江戸を離れた。

一八五三年十二月二〇日

イギリスの香港総督ボナムは、ペリーに対し「アメリカの小笠原領有宣言」と「石炭置場購入」を正式に抗議した。



督 總
國 港
英 香
ボ ナ ム

ペリーは「①現在の欧米系住民はアメリカ人のセーボレーだけ」「②自発的に自治政府を設立」「③一六七五年に日本が先占し、イギリスに権利は無い」と反論した。

ペリーはケンペル『日本誌』から一六七〇年の無人島発見、林子平『三国通覧図説』から一六七五年嶋谷市左衛門の調査を勉強していたと推測される。

日本国内には異国排斥を唱える攘夷論が高まつていた。

老中阿部正弘はアメリカの開国要求に頭を悩ませた。

阿部は江戸湾警備を増強すべく、砲撃用の台場を造営した。難破してアメリカ滞在のジョン万次郎を旗本格として登用し、アメリカ事情を聞いた。

幕府は、長崎のオランダ出島を通じて、諸外国の情報を手手していた。

中国ではアヘン戦争でイギリスに負けて香港が植民地化されていた。日本も危ない。

一八五四年二月一三日
(嘉永七年一月一六日)

ペリーは琉球を経由して再び浦賀に来航した。

七月一七日に帰る時に「一年の猶予」でしたが、七か月後にやってきました。



林大学頭復齋

日本側の交渉役は、学者
はやしだいがくのかみ ふくさい
の林大学頭復齋でした。



ペリーは武力を誇示した
砲艦外交で、祝砲を数十発
撃つたり、大艦隊を連れて
くると脅してきます。



対する林大学頭復斎は、
脅しに屈せず、冷静に知識
と情報で応報します。



ペリーの航跡図 当時は太平洋航路が確立されていなかった。
琉球を經由して小笠原に行っています。

一八五四年三月三十一日
(嘉永七年三月三日)

日米和親条約を締結

林大学頭復齋は、応接掛として老中阿部正弘から任命され、横浜村で交渉にあたった。

復齋はすでに当時の諸外国の動静を理解しており、鎖国体制の現状維持は困難と考え、異国船への薪水食料の給与程度はやむを得ずと判断し、ペリー艦隊との交渉でも柔軟に対応した。

ただし、通商要求に関しては時期尚早として断固拒絶した。



一八五八年七月二九日

(安政五年六月一九日)

日米修好通商条約 (四年後)

米国総領事タウンゼント・ハリスは当初から通商条約の締結を計画していたが、日本側は消極的態度に終始した。

交渉担当者の間でアメリカとの自由通商はやむを得ないという雰囲気醸成されると、

ほったまきよし

いのうえ

老中堀田正睦は下田奉行井上

きよなお

いわせただなり

清直と目付岩瀬忠震 (林復斎の甥) を全権として、条約の交渉を開始させた。



岩瀬忠震

一八六十年（万延元年）

「日米修好通商条約」を締結した幕府は、その批准書交換のため、万延元年遣米使節をポーハタン号でアメリカに派遣した。



ワシントン海軍工廠での遣米使節団
正使新見正興（中央）、副使村垣範正（左から3人目）
監察小栗忠順（右から2人目）

咸臨丸もお供でアメリカに行ったが、は船酔いで何もしないで帰ってきた。

勝海舟

一八六〇年（安政七年）

万延元年遣米使節は「日米修好通商条約」の批准書交換をし

おぐりただまさ

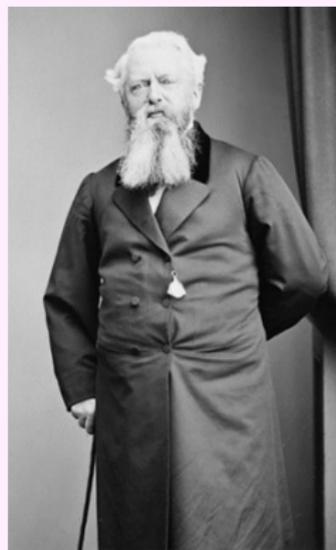
たが、小栗忠順はアメリカの近大技術に驚愕し、猛勉強した。

また、ペリーが書いた『日本遠征記』が手渡された。

帰国後、これを読んだ幕府は「日本が知らない間に、英米で小笠原島の領有を争っている」「ペリーが日本開国のために小笠原島を利用しようとした」「すでに父島には欧米人が定住している」などが克明に書かれていて驚愕しました。

幕府は小笠原島が国防上、たいへん重要な位置にあることに気付きました。

⑤ 英米と領土交渉



アメリカ公使
ハリス



英国公使
オールコック



老中
安藤信正



外国奉行
水野筑後守

各国の発見年代は

日本

一六七〇年

難破船が島を発見し、帰国

日本

一六七五年

江戸幕府が調査船 富国寿丸
(嶋谷市左衛門) が調査測量

イギリス

一八二七年

イギリス海軍ブロッサム号が
小笠原島を探検。英国領宣言

ロシア

一八二八年

ロシアの探検船セニャーヴィ
ン号が二見港に入港

アメリカ

一八五三年

ペリー艦隊が小笠原島に寄港
アメリカの領有を宣言

一八六一年

(文久元年九月十二日夜)

はやしだいがくのかみがくさい

林大学頭学齋 (復齋の子)

はなわじろうただとみ

が和学講談所の塙次郎忠宝

(保己一の子) に問い合わせ

林大学頭は、塙次郎忠宝に
「辰巳の無人島を小笠原島と
いう由来」を「今晚中に調べ
るよう」依頼。

和学講談所の塙次郎忠宝は
塙保己一が収集・分類した六
万冊の書物を即座に調べ、翌
朝、林大学頭に報告した。

【塙次郎の回答】

無人島を小笠原島と言うのは、文禄二年（一五九三年）に小笠原貞頼が伊豆遠江の沖に無人島を発見したと、孫の小笠原貞任の申出があり、以後、小笠原島と自然に言われるようになりました。

しかしながら、林子平が書いた「三国通覧図説」の絵図には「オランダの書にウーストエーラント（荒地島）と言う」と書かれています。

「小笠原島之記」並びに「三国通覧図説の絵図」、最近の「伊豆七島図」を添付いたします。

九月十二日

塙 次郎

「小笠原島之記」

伊豆国八丈沖
無人島の由緒

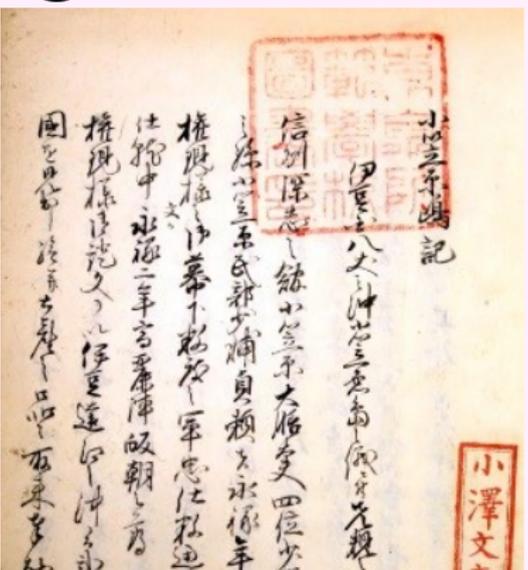
一七三三年

(享保十八年)

小笠原貞任の
甥に当たる

ながあき

長晷が、小笠
原島探検のた
め大坂を出航



一七八五年（天明五年）

林子平「三国通覧図説」

さんごくつうらんずせつ

はやししへい

『三国通覧図説』は、林子平が江戸時代に出版した本。隣接する三国（朝鮮・琉球・蝦夷）と付近の島々の風俗を挿絵入りで解説。地図五枚付き。無人島の図もあります。

かいこくへいだん

しかし同じ林子平の『海国兵談』が外国から日本を守る軍備の必要性を説いた本なので、松平定信に疎まれ、寛政の改革時（一七九一年）に発行禁止・版木没収となつた。この時、三国通覧図説も同様に発行禁止になりました。



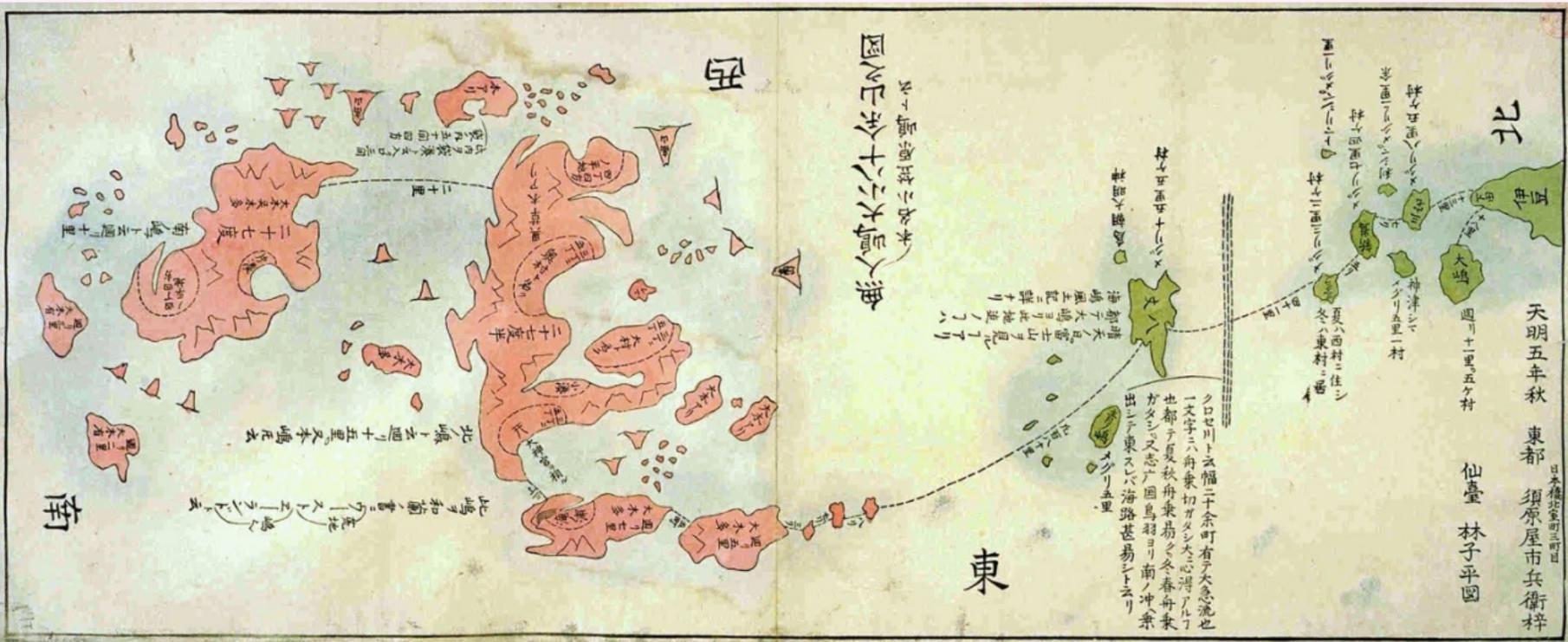
海国兵談の表紙

『三国通覧図説』は桂川甫周かつらがわほしゅうにより長崎出島のオランダ商館長イサーク・テイチングを経由して、オランダ、ドイツへと渡り、ロシアでヨーロッパ各国語版に翻訳された。欧米人は小笠原島を「ボニン・アイランズ」無人島と呼んだ。



ドイツ人クラブロートが
翻訳した三国通覧図説

「三国通覧図説」の小笠原地図 (北海道大学資料)



無人島 ↑

八丈島 ↑ 伊豆半島 ↑

無人島大小八十余山之図

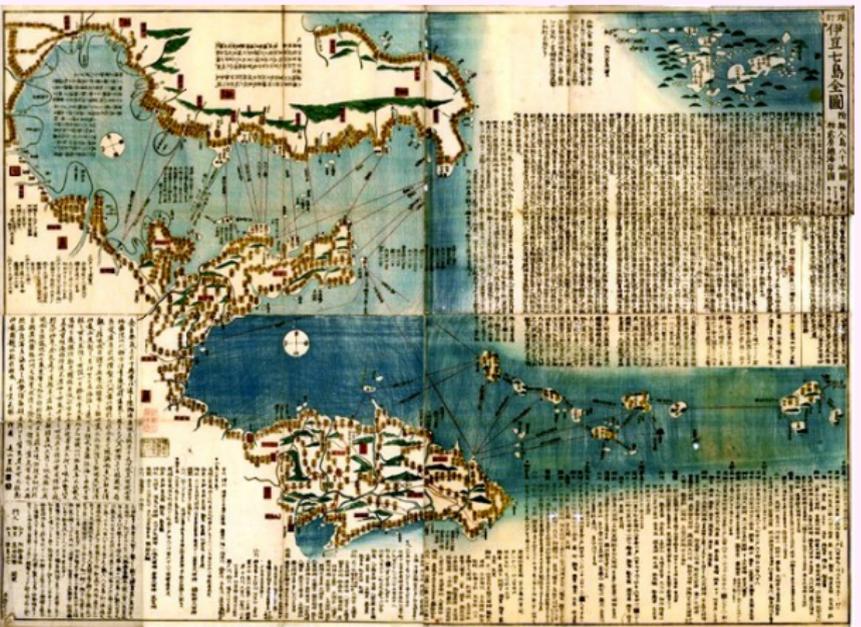
印刷：須原屋市兵衛

絵図：仙台 林子平

「伊豆七島全図」

林子平の三国
通覧図説より

この部分を拡大



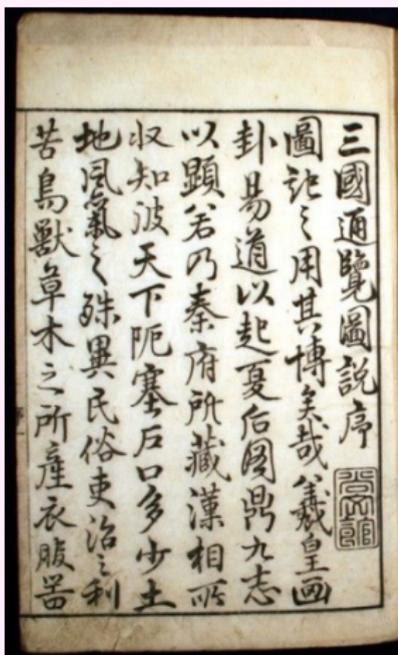
一八四二年（天保一三年）制作

三國通覽図説の本文（抜粋）



表紙

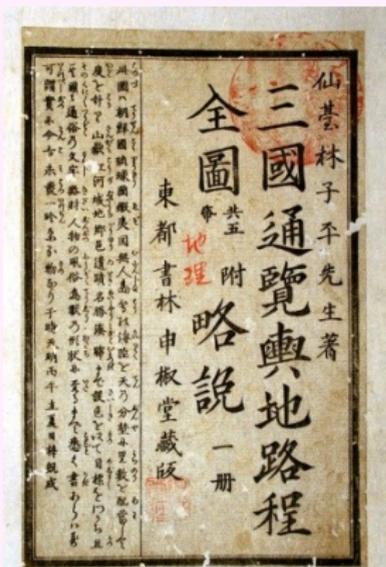
1 頁目



蝦夷のオットセイ猟



地図の表紙



三國通覽図説の無人島地図 (小笠原村資料の右半分)



三国通覧図説の 小笠原島（左回転）



文字を抽出

此嶋ヲ和蘭ノ書ニウーストエーランドト云
荒地
此嶋ヲ和蘭ノ書ニウーストエーランドト云

この島をオランダの書に

荒地 島

ウーストエーランドと言う

小笠原村 の資料

エーランド



北海道大学 の資料

エーランド



九州大学 の資料

エーランド



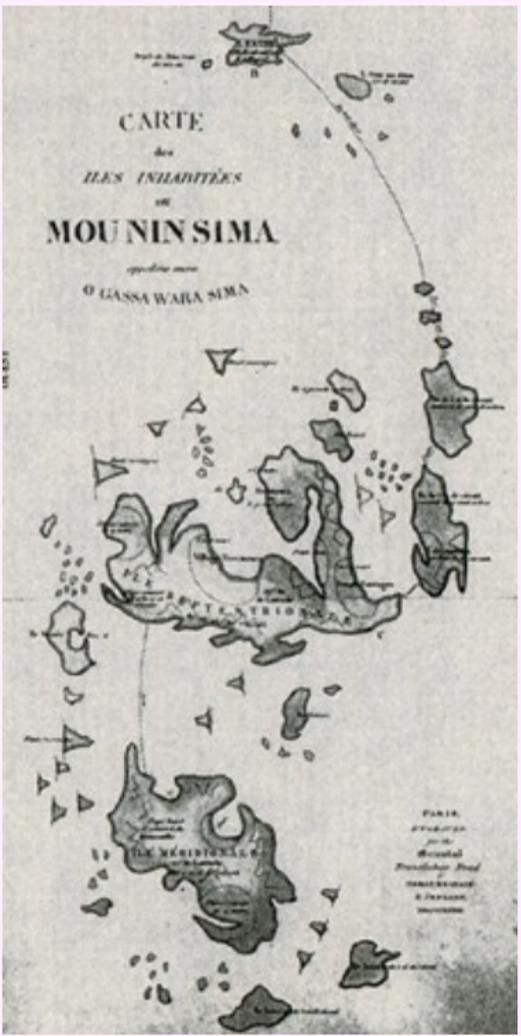
早稲田大学 の資料

エーランド



早稲田大学の資料

エーランド



フランス語訳の地図
(林子平全集より)

MOU NIN SIMA ←
OGASSAWARA SIMA ←

問題点を整理してみると

一六七〇年（寛文一〇年）

阿波国の蜜柑船が、難破して八丈島沖無人島に漂着して帰国

一六七五年（延宝三年）

嶋谷市左衛門が無人島を調査

一七二七年

長崎出島の医師ケンペルがドイツ帰国。遺稿から『日本誌』出版。「八丈島沖に無人島」英語・フランス語・オランダ語。

一七八五年（天明五年）

林子平『三国通覧図説』に

「無人島」地図や「この島をオランダの書にウーストエーラント（荒地島）と言う」と記述

一八一七年（文化一四年）

『三国通覧図説』がヨーロッパ各国語版に翻訳される

では、林子平が『三国通覧図説』の地図を描くのに使った『オランダの書』は何か。

当時は鎖国でしたが、オランダの出島を通じて、外国の情報はたくさん入っていました。ケンペルの『日本誌』から、八丈島の南に無人島があることは諸外国では知られていました。

『三国通覧図説』の地図は、一六七五年（延宝三年）に富国寿丸で無人島を調査した嶋谷市左衛門の子孫から資料を長崎で見せられて描き写しています。また出島の商館長フエイトから無人島について談話しています。

諸外国は「小笠原島は日本の島だ」と認識していたことが判明しました。

一八六一年（文久元年）
十一月十六日付け外交文書

あんどうのぶまさ

老中安藤信正は、各国公使に対して次の通告を發した。

文書で連絡します。

我が国の小笠原島は渡航を中断

みずのちくごのかみ

していたが、外国奉行水野筑後守を派遣し、今後開拓いたしません。真偽は不明だが、貴国民が小笠原島に移住していると伝え聞いたので、念のため申し入れます。

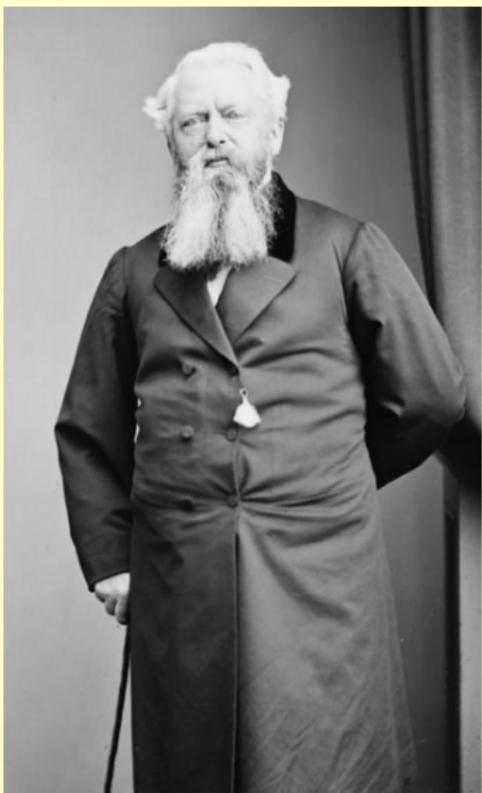


老中安藤信正

英国公使オールコックは、「この島は一八二七年にイギリスが領有した。日本人が最初に発見してもその後の管理を怠ったので、権利は消滅している。帰属先は、英米露に委ねるべきだ。しかし、開拓をする場合、船の自由な停泊を認めるならば干渉しない」と、開拓は承認するが、あくまで領有権は譲らなかつた。



英国公使オールコック



アメリカ公使ハリス

一方、アメリカ公使のハリスは冷静に状況を分析していた。

「下手に領有問題をこじらせて、小笠原島がイギリスのものになるくらいなら、むしろ日本の所有になった方がよい」と考え、「小笠原島に在住している島民の既得權益が守られるならば、領有権には固執しない」と回答した。

そして、公使館員からセーボレー宛に「外国奉行の水野筑後守は良い人だ」という手紙も託した。

一八六二年一月一八日
(文久元年一二月一九日)

みずのちくごのかみ

幕府は外国奉行水野筑後守

ただのり

忠徳らに命じ、アメリカから
帰還したばかりの咸臨丸で小
笠原島に官吏を派遣し測量を
行った。

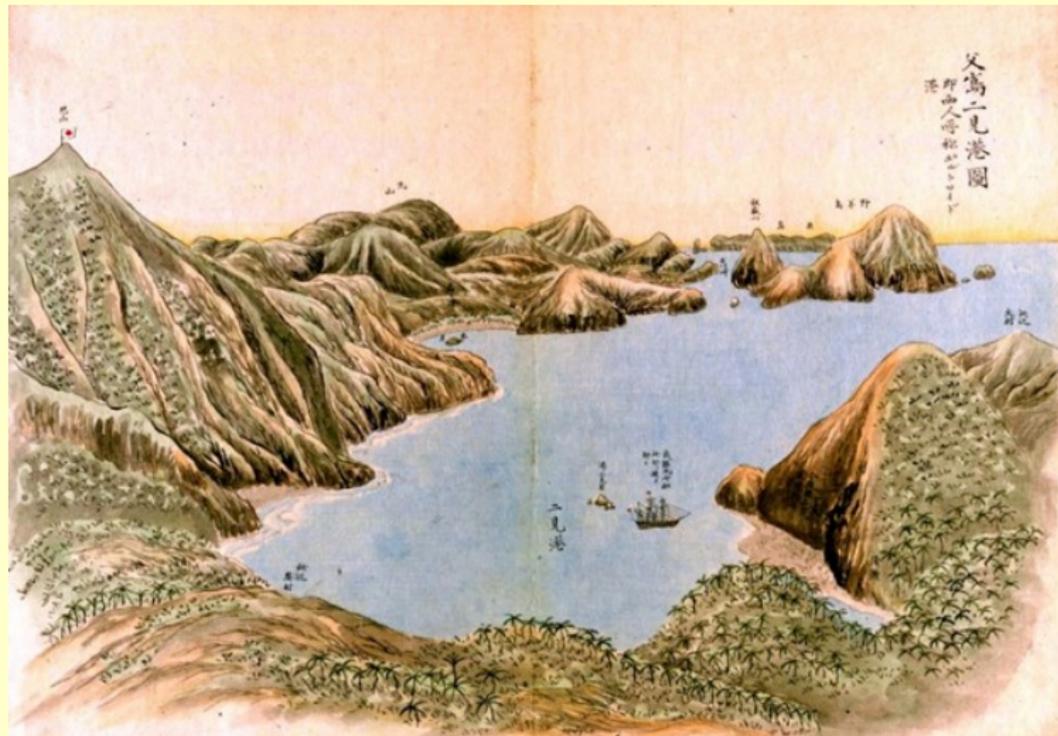
また、居住者に日本領土で
あること、先住者を保護する
ことを呼びかけ同意を得た。



外国奉行水野筑後守



嵐に難儀する咸臨丸



小笠原島真景図 父島二見湾
(停泊する咸臨丸)

一八六二年六月
(文久二年五月)

幕府は日本に駐在している
各国代表に小笠原諸島の
領有権を通告した。



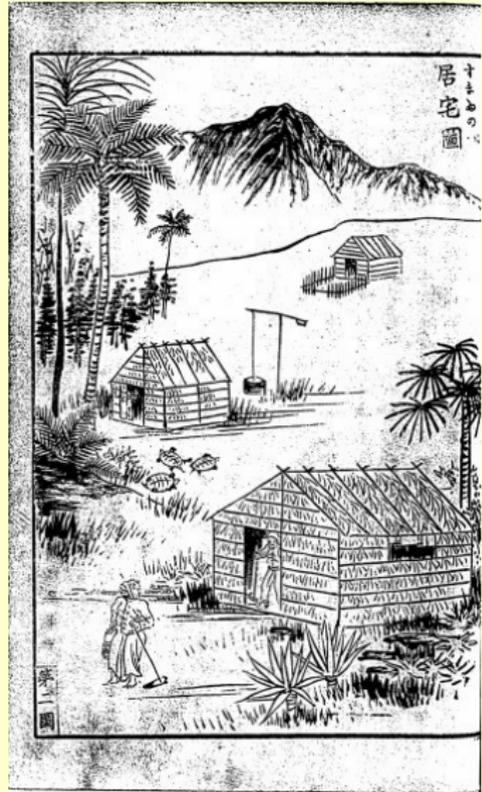
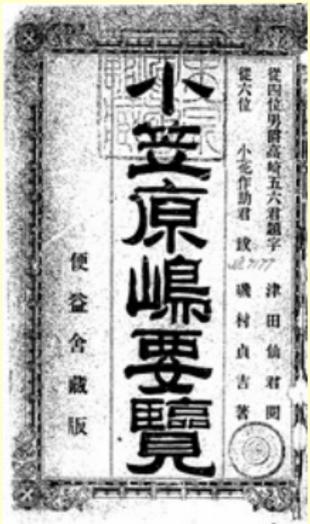
文久2年1月～8月に設置された
小笠原島仮役所と日本人の住居

一八六二年八月
(文久二年七月)

幕府は八丈島で入植者を公募し、小笠原諸島に開拓団三十名(夫婦十五組)と大工等七名を送り込みました。

また、咸臨丸調査時に残留し
おばなさくすけ

ていた小花作助など数名は島の管理に勤務し、小笠原諸島の開拓は順調に進んでいきます。



小花作助の
小笠原島要覽

一八六二年九月一四日
(文久二年八月二一日)

横浜で生麦事件が起き、イギリスとの戦争が懸念されたため、小笠原諸島の日本人住民全員に避難命令が出され帰国した。



神奈川新聞による2007年作成の仮定記事
児玉町出身の佐藤(茂木)虎次郎さんが社長

(後日、六万両の賠償で解決)

一八六二年

(文久二年) 一二月二一日

和学講談所を引き継いでいた
塙保己一の息子、塙次郎忠宝
は暗殺される。

老中安藤信正の依頼で「寛永
以前に幕府が外国人を待遇し
た式典」を調査するが、「孝
明天皇を廃位させるために廃
帝の典故」について調査して
いると言う誤った噂話が伝え
られ、勤皇浪士達は憤慨した。

塙次郎が駿河台の和歌の会か
ら帰宅したところ、自宅兼和
学講談所の前で何者かに襲撃
され、翌日死去した。

いとうひろがみ やまお ようぞう

後に犯人は伊藤博文と山尾庸
三と判明した。

一八七三年（明治六年）
（一八七五年（明治八年））

明治時代に入り、再び小笠原島の開拓が論議されるようになった。駐日英公使パークスは一八七三年（明治六年）に上野外務少輔、一八七五年（明治八年）に寺嶋外務卿を訪ね小笠原島の所属に関する日本側の意見を求めた。

パークスは、英国の領有権を積極的に主張しないで、米露と同じように共同管理の自由寄港を求めた。



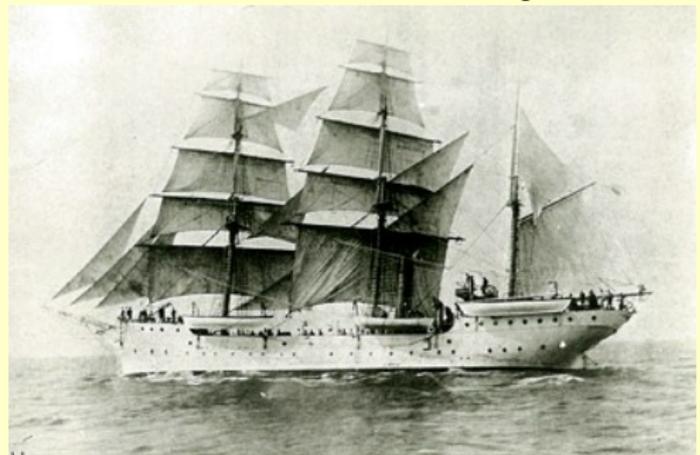
駐日英公使
パークス

一八七五年（明治八年）

明治政府は一八七五年（明治八年）小花作助を小笠原に派遣することを決め、明治丸で出航した。

同時に、英公使パークスの依頼で英国領事ロバートソンも父島をめざしたが、船足が遅く二日遅れで到着した。

同領事は同島に対する日本側の管轄を既成事実として承認し、なんらの異義を申し立てなかった。



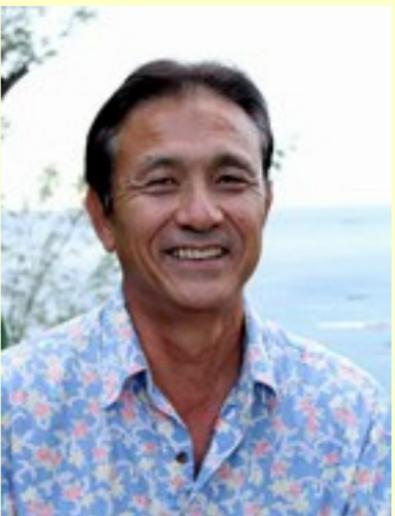
明治丸

一八七六年（明治九年）

日本政府は新たに制定した「小笠原諸島規則」を米公使を始めとして、仏、独、蘭など十か国政府に通達し、ここに至って、日本の小笠原領有は国際的にも確立された。

また「明治丸」に乗り込み小笠原に渡った小花作助は内務省の初代出張所長となる。

外国人居住者は全員が日本に帰化し、「セイボレー」が「瀬堀」など、日本人名を持つことになった。



私の視察に対応してくれた小笠原村役場のセイボレー孝さん

明治丸（江東区越中島の東京海洋大学に展示）



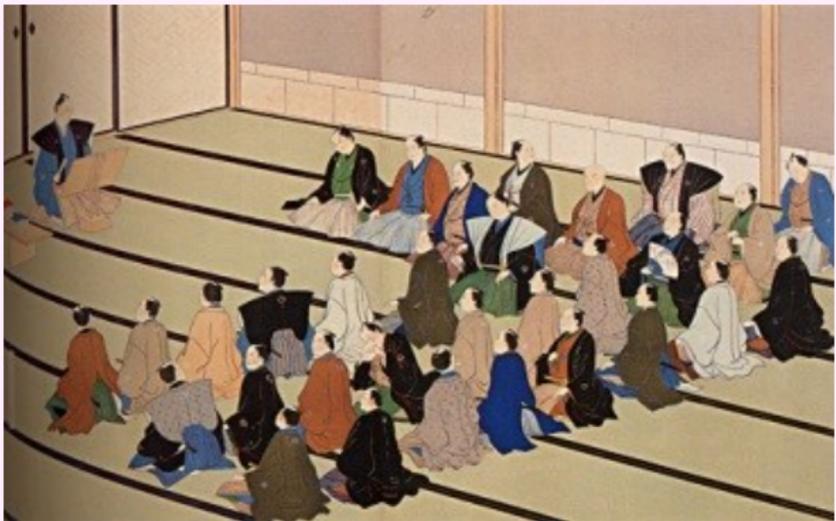
⑥ 和学講談所の資料

ペリー提督と交渉したのは林
大学頭復齋でした。

英米公使との交渉時には林大
学頭学齋（復齋の子）でした。

林家は、代々、昌平坂学問所
の塾頭を務めています。

また、外交文書も管掌してい
ました。更に、和学講談所も林
大学頭支配でした。



昌平坂学問所

①昌平坂学問所は、江戸幕府直轄の学校ですが、朱子学が中心でした。

②外交文書は林家が管掌し、外国奉行が文書を見るにも、林家の許可が必要でした。

③和学講談所は、有史以来の貴重な文献を収集し、塙保己一先生は、**蔵書の六万冊を全て記憶**していました。

小笠原貞任の裁判記録や、幕府が禁書としていた「三國通覧図説」など、幅広く収集し、分野別に分類していました。

この分類されたデータベースが役に立ったのです。

群書類従の版木は、渋谷区
の温故学会に保存され、今
でも刷り立て可能です。



群書類従 6 6 6 冊の一部



温故学会

群書類従の版木



群書類従の続編も

版木本の他に、大正から昭和にかけて「続群書類従完成会」が「群書類従」「続群書類従」「続々群書類従」の活字出版事業を行い、現在は八木書店が販売を継続しています。



「群書類従」	40万円＋税
「続群書類従」	80万円＋税
「続々群書類従」	20万円＋税

合計	150万円＋税
----	---------

群書類従

一二七三種、五三〇巻、
六六六冊

版木の木版印刷で出版した。

続群書類従

二一〇三種、一一五〇巻、
一一八五冊

塙保己一が計画し、没後は

ただとみ

子の忠宝、孫の忠韶や弟子

ただつぐ

たちが引き継いだ。

一九一一年（明治四四年）
に一部を刊行、その後、続
群書類従完成会が出版した。

続々群書類従、新群書類従

明治以降に、その他の資料
から『続々群書類従』『新
群書類従』が出版された。

小笠原貞任の訴状

下田より無人島迄海路三百五拾里程右之島御沙汰に付言上之訴状并口上之覚書

奉願御訴訟之事

一此度唐造御船辰巳無人島え被為遣之処逐見分言上依之重而上之諸人日本御重寶不過之重而御船被為遣御取立も於被遊者罷越度様申習候此島某共譜代之古主小笠原民部大輔文禄弍年七月二十日六日以權現様御証文島を乗取島之様體以絵凶書付奉言上置候右之緒も島の様子能承り傳へ罷有候問家来共差遣し候而御取立之御役相勤候様に被為仰付被下候者大勢家来之者助にも罷成候様奉

続々群書類従第九に収録

日本の領海等概念図

日本は小さな島国ですが、
排他的経済水域の広さは世
界で六番目の海洋大国です。



海上保安庁のホームページより

私は、小笠原島の
領有問題に関して、
塙保己一先生が設立
した和学講談所の資
料が、多大に役立っ
たと考えております。



謝 辞

この資料は、平成二十五年九月十日の「総検校塙保己一先生遺徳顕彰祭」の講演用に作成しました。

この資料の作成に当たり、本庄市児玉町 長谷川典明先生を始め、総検校塙保己一先生遺徳顕彰会事業部会委員のご指導・ご協力に感謝申し上げます。

参考文献、ホームページ、データベース等に感謝申し上げます。

また、平成二十年の個人視察にご協力いただきました東京都小笠原村教育委員会のごセーボレー孝さん、島田絹子係長さんにお礼申し上げます。
更に、嶋谷市左衛門の研究者 長崎市の松尾龍之介さんや、小栗上野介の研究者 高崎市東善寺の村上泰賢さんの指導を受け、令和五年の講演用に手直ししました。

参 考 文 献

- 「幕末の小笠原」 田中弘之著
- 「小笠原島紀事」 坂田諸遠編纂 近代デジタルライブラリー
- 「小笠原島之記」
- 「歴史の語る小笠原島」 大熊良一著
- 「小笠原クロニクル」 山口遼子著
- 「硫黄島と小笠原をめぐる日米関係」 ロバート・D・エルドリッチ
- 「ケンペルとシーボルト」 松井洋子著 ※青色は講演後に購読
- 「小笠原諸島をめぐる世界史」 松尾龍之介著 (2014発売) 平成26年
- 「ウィキペディア」 WEB上のフリー百科事典
- 「幕末の外交決断サムライたちの小笠原諸島」 ホームページ
- 「ラムを探して三千里」 ホームページ
- その他、多数の文献やホームページに感謝申し上げます。

参照データベース

- 国立国会図書館デジタルライブラリー
- 国立国会図書館デジタル化資料
- 国立公文書館デジタルアーカイブ
- 外務省外交史料館 日本外交文書デジタルアーカイブ
- 九州大学デジタルアーカイブ
- 北海道大学、一橋大学、新潟大学、早稲田大学、その他
- 筑波大学中央公民館で「小笠原島之記」を写真撮影
- 群馬県立図書館で「歴史の語る小笠原島」を貸出

著 作 田 中 学

3 6 6 - 0 8 2 2 埼玉県深谷市仲町 3 - 1

電子メール gakusan@tanaka.nifty.jp

平成25年9月12日「総検校塙保己一先生遺徳顕彰祭」の講演
「塙保己一先生と小笠原島」の資料を元に、更に勉強を続け「鳴谷
市左衛門の研究者 長崎市の松尾龍之介さん」や「小栗上野介の研
究者 高崎市東善寺の村上泰賢さん」の助言により、令和4年に一
部を修正しました。